

きれいを願って「井せり川」調査

熊本市立池上小学校 5年 森高 みお

1 研究の目的

学校の前には、「井せり川」が流れている。先日、祖父と散歩中に「こい」が泳いでいるのを見た。でも、川はあまりきれいではなかった。そこで、この川はどこから流れてきているのか、川の始まりはきれいなのか、疑問に思い調べることにした。

2 研究の方法

- (1) 地図を使って井せり川の始まりと終わりを確認し、調べるポイントを5ヶ所決める。
- (2) 5ヶ所それぞれのポイントで、目を見た川の汚れ、ペットボトルを使った透視度、水温や溶存酸素量、リトマス試験紙を使った水質調査を行う。

3 研究の結果

目を見た時の透明度の差より、透視度計を使って見たときの透明度には大きな差があり、上流の熊野座神社の水に比べ、下流の千金甲橋の水では透明度が半分になっていた。この計測で上流から川が下降していくほどだんだん水が汚れていくことが分かった。



場 所	印がみえた距離	場 所	印がみえた距離
熊野座神社	48.5 cm	天満橋	36.4 cm
熊本保健科学大学前	44.3 cm	千金甲橋	23.0 cm
池上小学校前	39.7 cm		

採取した場所	時間	気温()	水温()	溶存酸素量(DO)	水質(pH)
熊野座神社	8:50	31.5	27.0	6 mg	中性
熊本保健科学大学前	9:30	32.4	32.0	6 mg	中性
池上小学校前	13:30	36.8	34.0	6 mg	中性
天満橋	13:50	36.8	35.0	6 mg	中性
千金甲橋	14:20	37.0	36.0	5 mg	中性

川の水と気温の差は、海に近づくほど小さくなってきていることが分かる。水温と気温の差も上流より下流の方が差が小さく、水温が高くなるほど透明度も低くなっている。井せり川は、どこで測っても溶存酸素量は魚が生きていける1 L中5 mg以上であり、水質も水道水と同じ中性であった。

4 研究の考察

これらの研究の結果から、上流から下流に行くにつれてだんだん水は汚れていたことは確かである。しかし、溶存酸素量や水質を調べてみると、魚が生きていくことができる川であることが分かった。魚が住める状態であっても少しずつ川は汚れている。水が豊かな熊本、そして、自分が住んでいる町を流れる川だからこそ、大切にしていかなければならないと思った。